

2022年3月期 第1四半期決算 IR説明用資料



株式会社オートバックスセブン

2021年7月30日

注：当社は第1四半期において決算説明会を行っておりません。
この資料は、決算をよりご理解いただくために、参考までに作成している資料です。

目次

2022年3月期 第1四半期 業績

- | | |
|-----------------------------|------|
| 1. 全体概況 | P. 2 |
| 2. 国内オートバックス事業 | P. 6 |
| 3. 海外事業 | P. 8 |
| 4. ディーラー・BtoB・オンラインアライアンス事業 | P. 9 |

TOPICS

- | | |
|------------------------------|--------|
| 5. TOPICS（5年ローリングプラン、SDGsなど） | P. 1 0 |
| <hr/> | |
| 6. その他資料 | P. 2 2 |

2022年3月期1Q 連結損益計算書

増収・増益：新型コロナの影響を受けつつも、回復基調を継続し、大幅増益

前期は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたが、当期は国内オートバックス事業を中心に回復基調を継続。国内オートバックス事業は、主力のカーエレクトロニクスやタイヤなどを中心に好調に推移。

※当1Qの期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用。（前期実績は適用前の実績値）

(単位：億円)	2022年3月期 1Q			2021年3月期 1Q	
	実績	売上比	前期比	実績	前期比
連結売上高	522 (532)		+16.1% (+18.3%)	450	▲ 10.9%
売上総利益	176 (177)	33.8%	+17.2% (+17.6%)	150	▲ 7.2%
販管費	161 (162)	30.9%	+10.5% (+11.3%)	146	▲ 2.7%
営業利益	15 (14)	2.9%	+229.7% (218.1%)	4	▲ 62.1%
営業外収支	1 (1)	0.4%	▲ 36.3% (▲36.3%)	3	+109.1%
経常利益	17 (16)	3.3%	+124.8% (+117.7%)	7	▲ 44.0%
親会社株主帰属利益	10 (10)	2.1%	+189.6% (+175.2%)	3	▲ 54.6%

※表示単位未満は切り捨て
※対売上比・前期比は円単位で計算

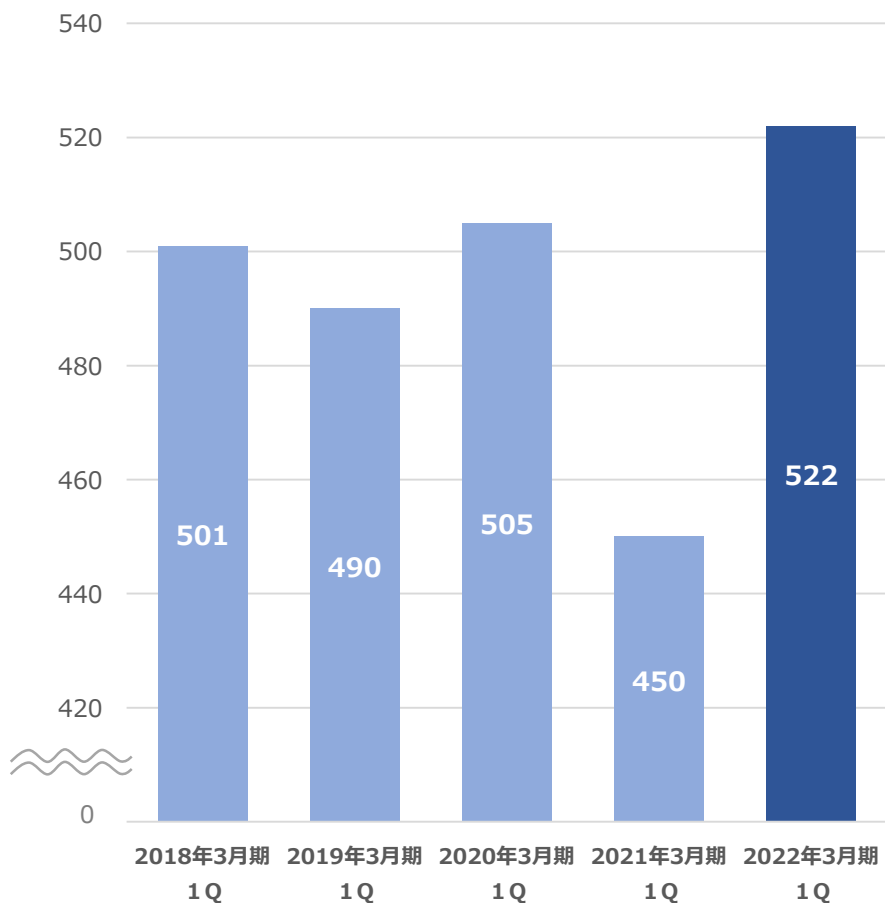
※上段は当期の実績値と前期の実績値を単純比較した場合の数値を記載
※下段（ ）は「収益認識に関する会計基準」等適用しなかった場合の数値を記載

2022年3月期1Q 連結売上・営業利益 5カ年推移

直近5カ年で最高益

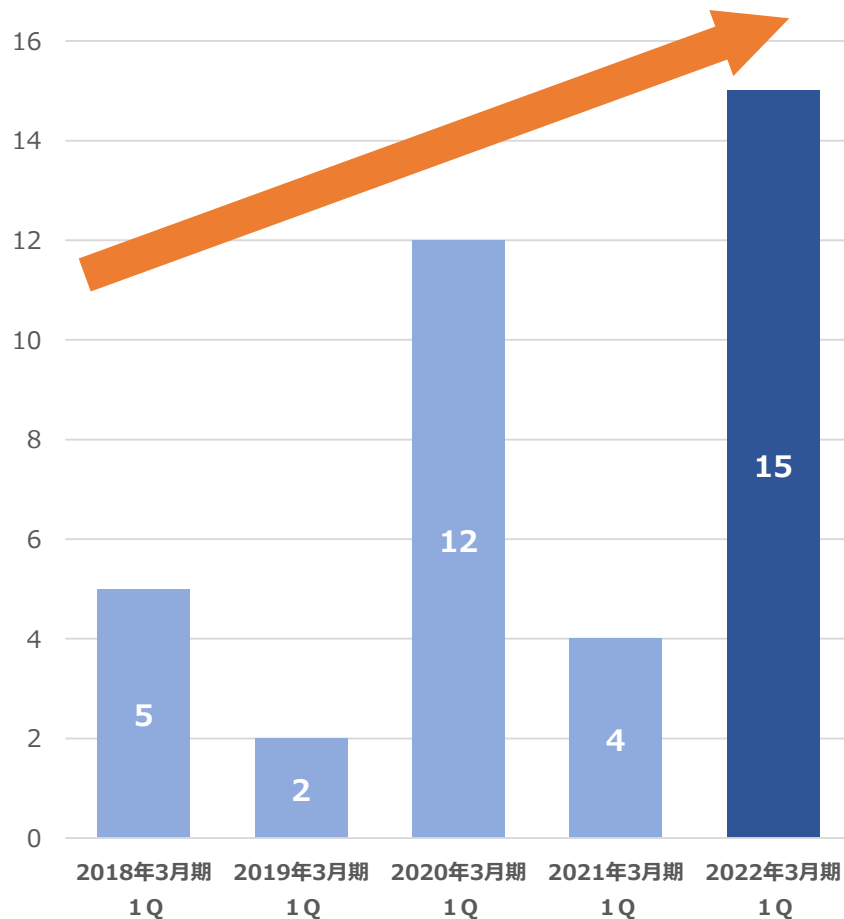
売上高の推移

(単位：億円)



営業利益の推移

(単位：億円)



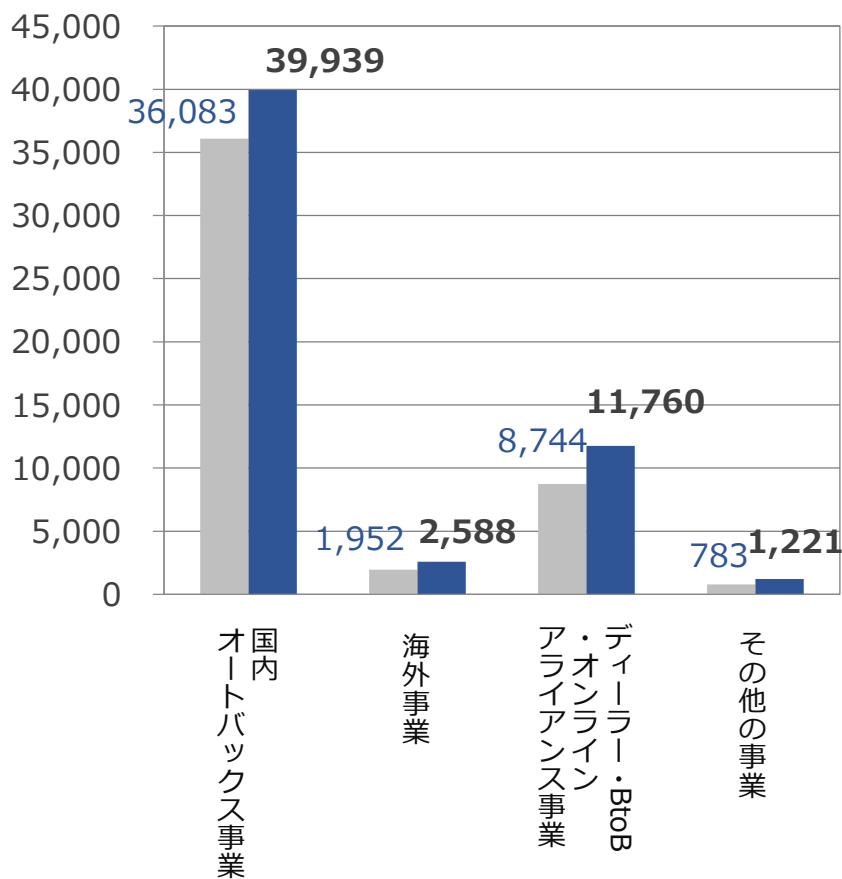
※表示単位未満は切り捨て

※前連結会計年度以前については、新たな表示方法による組替えを行っておりません

報告セグメント別売上および利益

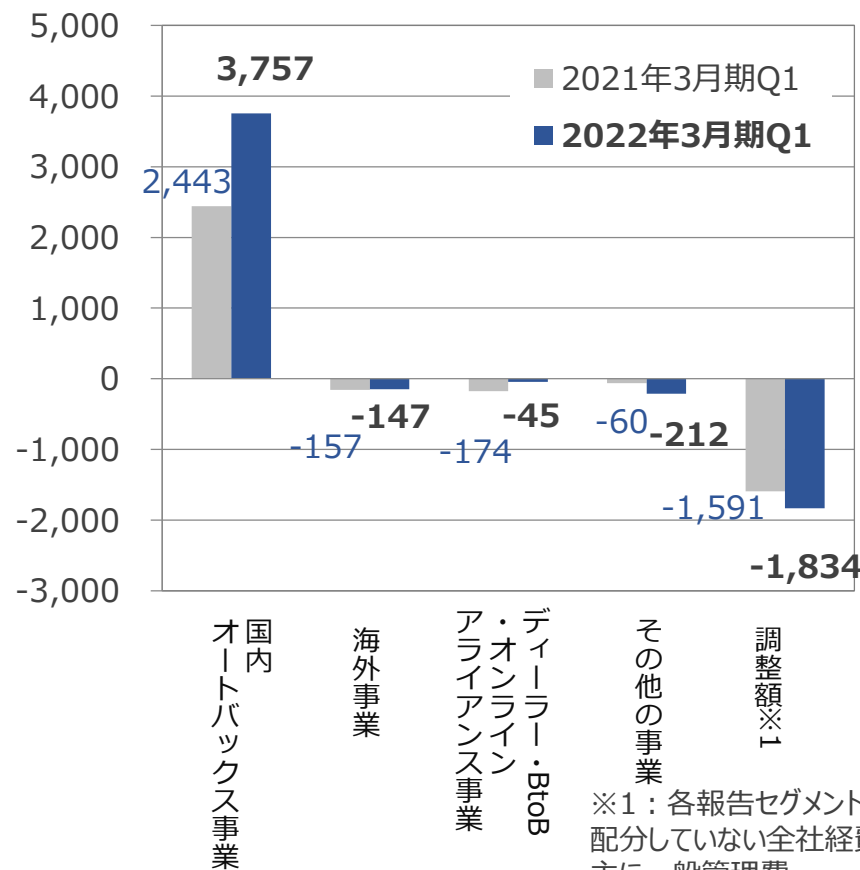
売上高

(百万円)



セグメント利益

(百万円)



※1：各報告セグメントに配分していない全社経費であり、主に一般管理費

※セグメント名称変更について：2022年3月期より、事業内容をより適正に表示するため、従来の「ディーラー・BtoB・ネット事業」のセグメント名称を「ディーラー・BtoB・オンラインアライアンス事業」に変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

※表示単位未満切り捨て ※セグメント間の取引を消去する前の数値 ※前連結会計年度については、新たな表示方法による組替えを行っておりません

2022年3月期1Q 報告セグメント情報

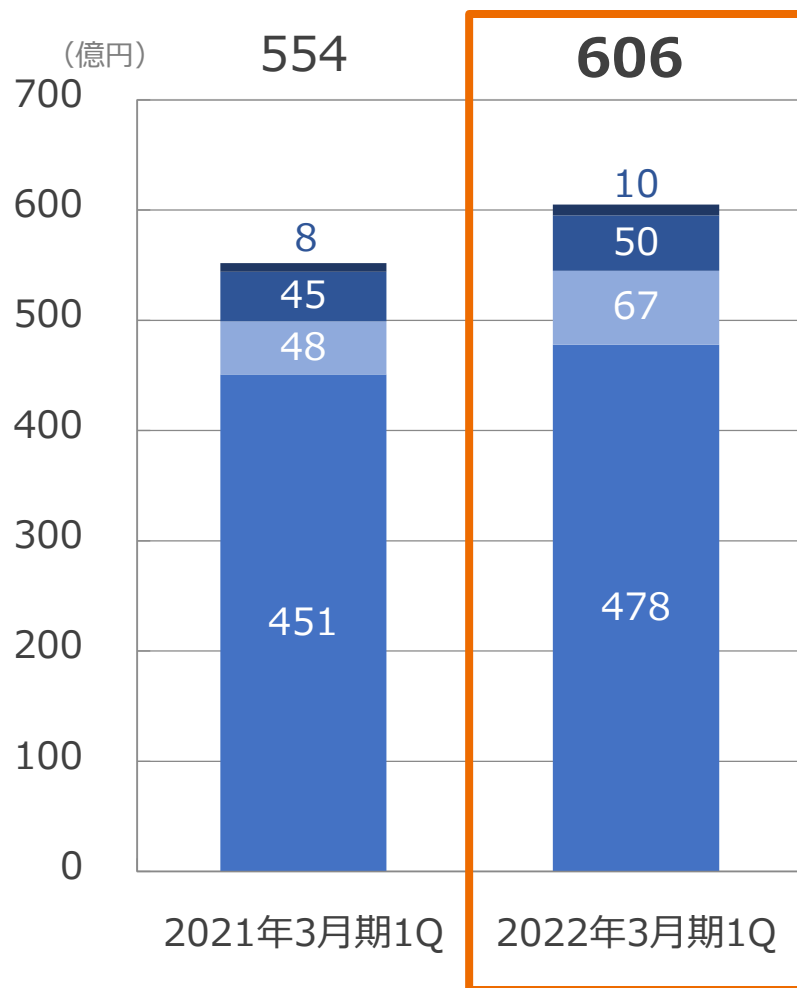
(単位：百万円)		2022年3月期 1Q	2021年3月期 1Q	参考前期比	総括
国内 オートバックス 事業	総売上高	39,939	36,083	+10.7%	前期は新型コロナの影響を大きく受けたが当期は回復基調を継続。カーエレは世界的な半導体不足も、戦略的商品調達により売上増加。営業利益は大幅増加。
	売上総利益	13,512	12,088	+11.8%	
	販管費	9,754	9,644	+1.1%	
	営業利益	3,757	2,443	+53.8%	
海外事業	総売上高	2,588	1,952	+32.6%	フランスをはじめとした都市封鎖などが解除されたことにより、売上が回復。販管費は、前期に家賃等の一部減額があったことによる反動で増加。
	売上総利益	1,200	947	+26.8%	
	販管費	1,348	1,104	+22.1%	
	営業利益	▲147	▲157	-	
ディーラー・ BtoB・ オンライン アライアンス事業	総売上高	11,760	8,744	+34.5%	前期は新型コロナの影響を受けたが、当期は回復したことに加え、2021年4月に取得した2社による売上、販管費が増加。営業損失は縮小。
	売上総利益	2,529	1,756	+44.1%	
	販管費	2,574	1,930	+33.4%	
	営業利益	▲45	▲174	-	
その他の事業	総売上高	1,221	783	+55.9%	ライフスタイル事業の拡大などに伴い、売上および販管費が増加。
	売上総利益	421	276	+52.4%	
	販管費	634	337	+88.2%	
	営業利益	▲212	▲60	-	
調整額	営業利益	▲1,834	▲1,591	-	

※表示単位未満は切り捨て
※前期比は円単位で計算

※前連結会計年度については、新たな表示方法による組替えを行っておりません。参考前期比は、当期の実績値と前期の実績値を単純比較した場合の数値を記載しています。

2022年3月期1Q 国内店舗売上高

国内店舗売上高 606億円 前期比 +9.4%



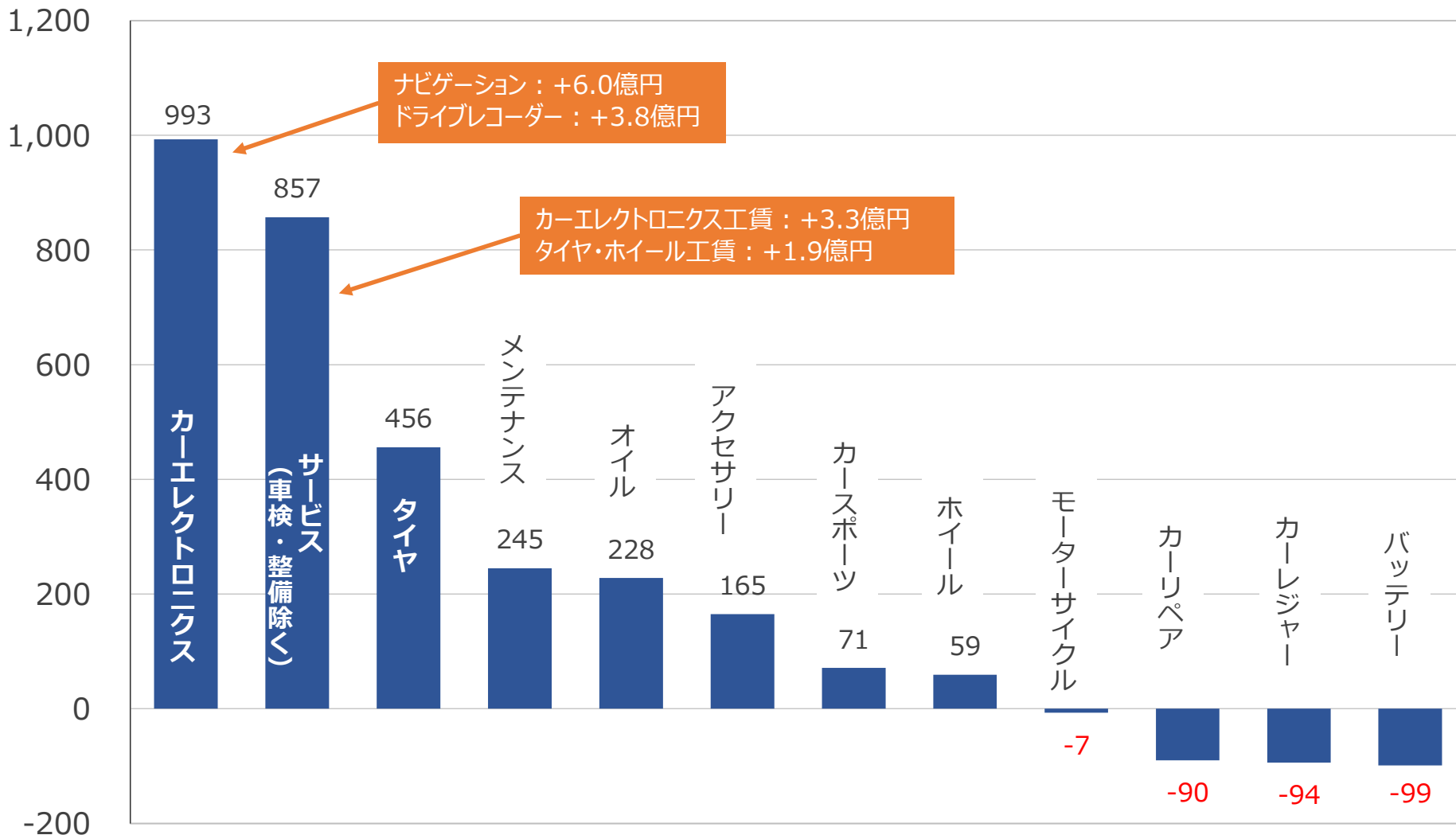
	実績	前期比
中古品・燃料	10億円	+20.0%
車検・整備	50億円	+9.9%
指定認証拠点	15.8万台	+10.0%
	430店	前期末±0店
車買取・販売	67億円	+38.5%
カーズ加盟店舗	6,934	+23.0%
	392店	前期末▲10店
カー用品販売 +サービス	478億円	+6.0%

※対象：国内オートバックスチェーン全業態
 ※表示単位未満切り捨て ※前期比は円単位で計算

商品別 カー用品売上増減額

商品別 小売売上高増減額（前期比 全店ベース）

(百万円)



※対象：国内オートバックスチェーン全業態

※表示単位未満は切り捨て

2022年3月期1Q 海外連結子会社の状況

(単位：
百万円)

	フランス		シンガポール		中国		マレーシア		オーストラリア		タイ	
店舗数	10		2		0		4		0		20	
期間	22/3 1Q	21/3 1Q	22/3 1Q	21/3 1Q	22/3 1Q	21/3 1Q	22/3 1Q	21/3 1Q	22/3 1Q	21/3 1Q	22/3 1Q	21/3 1Q
売上高	1,544	1,097	333	301	180	168	9	5	484	226	0	146
販管費	896	708	149	118	54	38	7	8	120	92	0	60
営業利益	▲67	▲120	5	59	▲5	8	▲4	▲5	36	▲23	0	▲17
状況	段階的な外出規制の解除にともない小売の売上が回復。販管費は、前期に家賃等の一部減額があったことによる反動で増加。		5月以降に再びロックダウンが実施されるも売上は増加。板金整備の子会社SK AUTOMOBILE PTE. LTD.においては、交通量の減少にともない修理件数が減少。		オーソライズドディーラーとしての認定店を増加させ、新規卸売先を開拓したことなどにより、卸売が増加。販管費は前年コロナ禍での活動抑制による反動で増加。		政府による断続的な活動制限令により一部業務停止指示あり。感染も拡大しており厳しい営業状況が続く。経費を削減し営業損失は縮小。		一部地域ではロックダウンによる影響を受けるも、カーエレクトロニクス商品や無線機に加え、新規商品導入などの営業活動により卸売が増加。		2020年10月にSAB社の一部株式の譲渡と取得を行い、連結子会社から持分法適用関連会社に異動、現地主導のオペレーションへ。	

※表示単位未満切り捨て

1Q ディーラー・BtoB・オンラインアライアンス事業概況

ディーラー事業

- ✓ 2021年4月、Audi正規ディーラーを運営する(株)TAインポートの全株式を取得（BMW、MINIに続く、3つ目のブランドの展開）
- ✓ 前期は新型コロナの影響により売上は減少も、当期は順調に売上回復



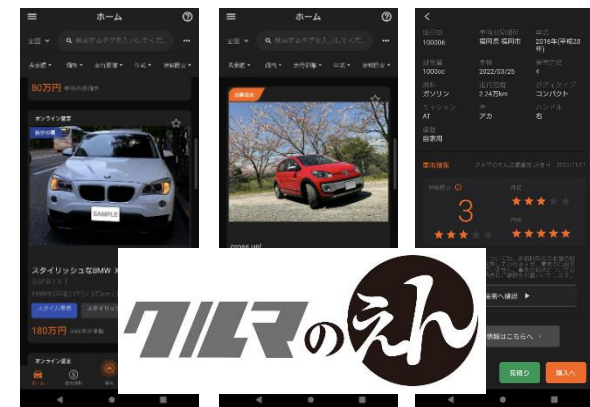
BtoB事業

- ✓ 2021年4月、関東近郊で車検・整備・タイヤ販売を運営する(株)ジョイフル車検・タイヤセンターの全株式を取得
- ✓ 2021年4月に日産自動車(株)と業務提携
まず、当社で取り扱う車内用品や洗車用品などのカー用品を上期より同社へ供給することで合意し契約を締結



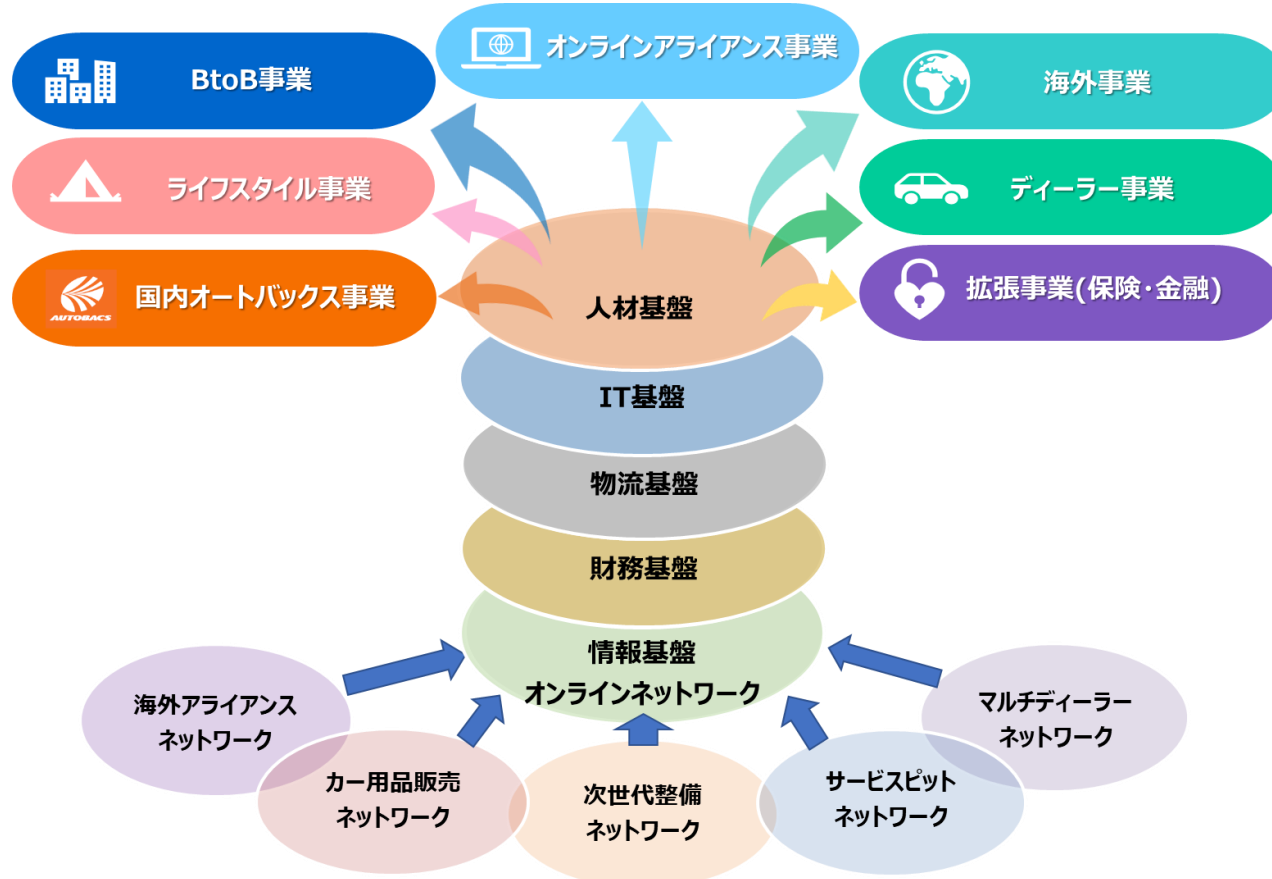
オンラインアライアンス事業

- ✓ 売り手と買い手を繋ぐ安心・安全なプラットフォームとして、個人間で中古車の売買ができるフリマアプリ「クルマのえん」のサービスを開始



5カ年ローリングプラン

ネットワークの確立・連携を通じてお客様との接点の拡大を推進



「7つの事業」「5つの事業基盤」「6つのネットワーク」

BSサミット事業協同組合※との包括業務提携契約を締結 (2020.08.20)

次世代整備
ネットワーク

サービスピット
ネットワーク

ネットワーク構築の取り組み



- オートバックス約600店舗 + BSサミット380法人との連携
- お客様向けに整備のワンストップを実現
- 九州、関東、東北で実験・検証をスタート
- 2021年7月
熊本にキャリブレーション
エリアを新設し、地域の
共用工場として設備を
オープン化



※約380の組合員を持つボディショップ全国ネットワーク

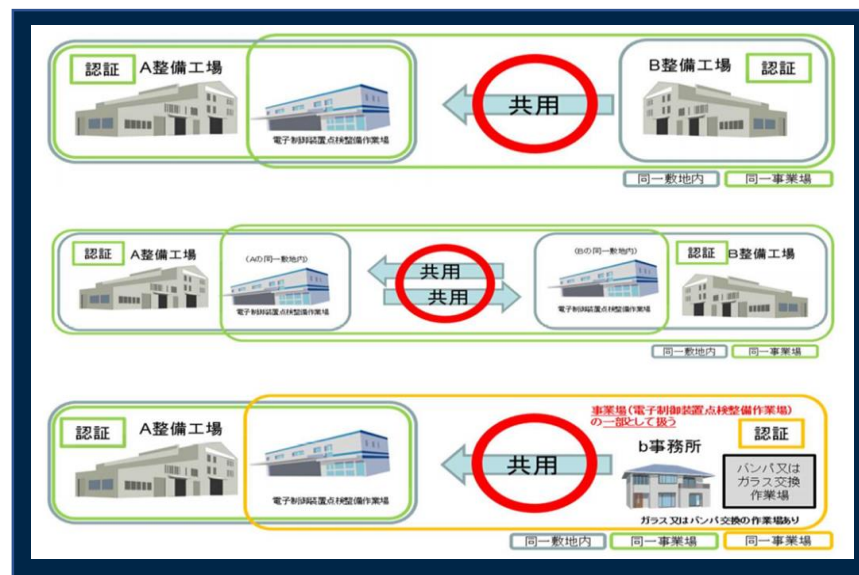
キャリブレーションエリア新設（エーミング設備の共用） 1

～国土交通省が定める「離れた作業場及び設備の共用」～（2021.07.07）

次世代整備 ネットワーク

- ・スーパーオートバックス・熊本東バイパスを共用工場として、設備をオープン化
- ・先進安全自動車のセンサー類のエーミング（校正）設備を備え、地域の整備事業者も活用可能に
- ・外注作業としての請負も実施

ネットワーク構築の取り組み

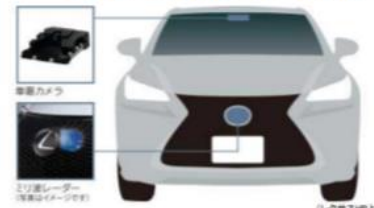


市販車に搭載されている、(→)
前方をセンシングするためのデバイスの例
カメラ(単眼/複眼)、ミリ波
レーダー、赤外線レーザー

複眼カメラ



カメラ・ミリ波レーダー複合型



キャリブレーションエリア新設（エーミング設備の共用） 2

～国土交通省が定める「離れた作業場及び設備の共用」～（2021.07.07）

- ・地域の整備事業者など関係者の方々へ、連携や共用設備について説明



キャリブレーションエリア新設発表会の様子



当社 社長執行役員 小林喜夫巳



BSサミット事業協同組合 磯部理事長 13



Audi正規ディーラー (株)TAインポートの全株式取得 (2021.04.01)

マルチディーラー
ネットワーク

ネットワーク構築の取り組み

- マルチディーラーネットワーク構築の一環として、輸入車などプレミアムカーユーザーとの接点創出を推進
- BMW、MINIに続く、3つ目のブランドの展開



2021年4月 (株)ボックス・アドバンスとして運営開始

(株)ジョイフル車検・タイヤセンターの全株式取得

(2021.04.01)

次世代整備
ネットワーク

サービスピット
ネットワーク

カー用品販売
ネットワーク

ネットワーク構築の取り組み

- 北関東を中心に、ホームセンター併設の車検・タイヤセンターを6拠点展開
- ホームセンターを利用されるお客様に対する安心・安全なサービス・商品を提供
- 車検・整備分野における事業拡大や用品販売とのシナジー創出を推進



日産自動車(株)との業務提携

(2021.04.20)

カー用品販売
ネットワーク

ネットワーク構築の取り組み

- お客様の利便性の向上および豊かなカーライフ文化の創造を目的に、業界の垣根を越え、日産自動車と業務提携
- カー用品の供給やNISSAN/NISMOブランドグッズの共同企画・開発、さらに、お客様向けコラボレーションイベントの開催および上記商品の販売などを検討
- 当社供給商品については、グローバルでの展開も検討
- 車内用品や洗車用品などのカー用品を、2021年度上期より供給することで合意



右：当社 代表取締役社長執行役員：小林喜夫氏
左：日産自動車(株) 専務執行役員グローバルアフターセールス担当：ケント オハラ氏

C to C 中古車売買フリマアプリ「クルマのえん」

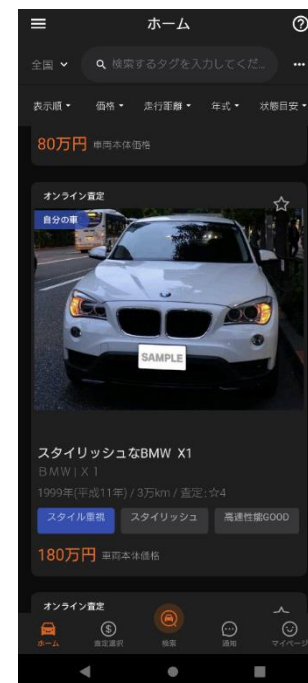
(2021.04.12)

オンライン
ネットワーク

ネットワーク構築の取り組み

- 売り手と買い手を繋ぐ安心・安全なプラットフォームとして、個人間で中古車の売買ができるフリマアプリ「クルマのえん」のサービスを開始
- 個人間取引の場合は原則として消費税が不要
- 業者などが介在せずに中間コストを削減

クルマのえん



従来の中古車の売買



【従来の中古車売買サービスイメージ図】



【「クルマのえん」の中古車売買サービスイメージ図】

※出品者側に車両本体価格の10%のシステム利用料がかかります。

ESG・SDGsの推進 1 ～これまでの取り組み～



環境	社会	ガバナンス
<p>2011年環境方針策定 商品の簡易パッケージ化(省資源) 車用芳香剤リサイクルプログラム メガソーラー設置 など</p>	<p>交通安全への取り組み 次世代人材育成支援 健康への取り組み 多様な働き方の推進 など</p>	<p>企業統治体制 CSRマネジメント ステークホルダーとのコミュニケーション など</p>
 	  	

ESG・SDGsの推進 2 ～現在から今後の取り組み～

社長執行役員をリーダーとしたプロジェクトを発足（2021年1月）

現在

社会課題の再認識

マテリアリティの再検討

価値創造ストーリー再定義

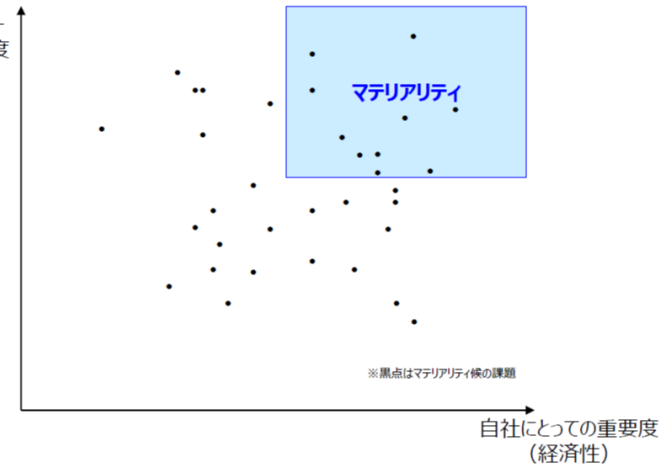
マテリアリティの特定

重要課題のKPIを設定

経営戦略に統合

今後

ステークホルダー
にとっての重要度
(社会性)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ESG・SDGsの推進 3

私たちのありたい姿

プロフェッショナルでフレンドリーな存在でありたい

社会課題の認識

1 循環型・共生型社会の実現



2 気候変動への対応



3 地域社会の活性化



4 多様な人財と多様な働き方の追求



5 健康でやりがいがある仕事づくり



当社における検討中のマテリアリティ

1 社会課題を解決する事業の創出

・SDGsに貢献する新規事業開発/オープンイノベーション/EVへの対応 など…

2 環境・社会に配慮した取組の充実

・省エネ等のCO2削減/環境負荷を低減/地域社会との共生 など…

4 持続可能かつ強固な経営基盤

・ESG経営/デジタルトランスフォーメーション/社会貢献 など…

3 成長し続ける組織・人財

・次世代人材・整備士の育成/働き方改革/健康経営/D&I など…

自社株買いと消却について

自己株式取得

取得期間	取得株式の種類	取得株式の総数	取得価額の総額
2021年5月11日～ 2021年9月30日	当社普通株式	2,000,000株※ (上限)	3,000百万円 (上限)

※発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合2.5%

自己株式消却

消却実施日	消却株式の種類	消却株式の総数
2021年5月17日	当社普通株式	2,000,000株※

※消却前の発行済株式総数（自己株式を含む）に対する割合2.4%

《参考》

2021年6月30日現在の自己株式の保有状況

発行済株式総数（自己株式を除く）	82,050,105株
当社が保有する自己株式数	2,223,251株

参考：収益認識に関する会計基準等の適用

2022年3月期 1Qより「収益認識に関する会計基準」を適用

返品権付き販売

返品されると見込まれる商品の売上高および売上原価相当額を認識しない方法に変更

代理人取引

当社の役割が代理人に該当する取引は、売上高と売上原価を相殺した純額で収益を認識

顧客に支払われる対価

販売費及び一般管理費へ計上していた、顧客に支払われる対価は、売上高から減額

一時点又は一定期間にわたり充足される履行義務

顧客がメンテナンスの便益を受ける一時点または一定の期間にわたり収益を認識

収益認識に関する会計基準等の適用における影響額

2022年3月期
1Q

(単位：百万円)

連結売上高	▲1,002
売上原価	▲941
販管費	▲114
営業利益	+53
経常利益	+53
税金等調整前 四半期純利益	+53

2022年3月期1Q 車買取・販売

台数合計 **6,934台** 前期比 **+23.0%**

業販	
内訳	売上台数
本部へ売却	131台
本部へ売却を委託	1,035台
店舗から直接	3,161台
業販 合計	4,327台

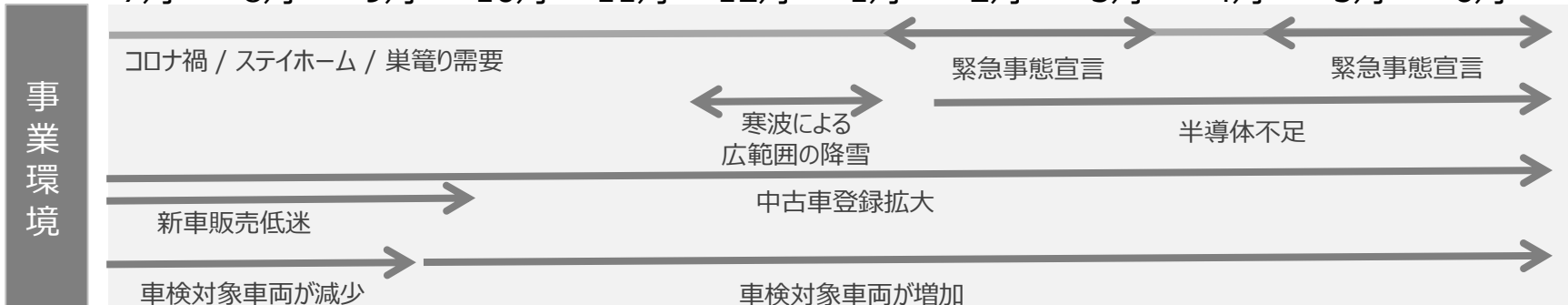
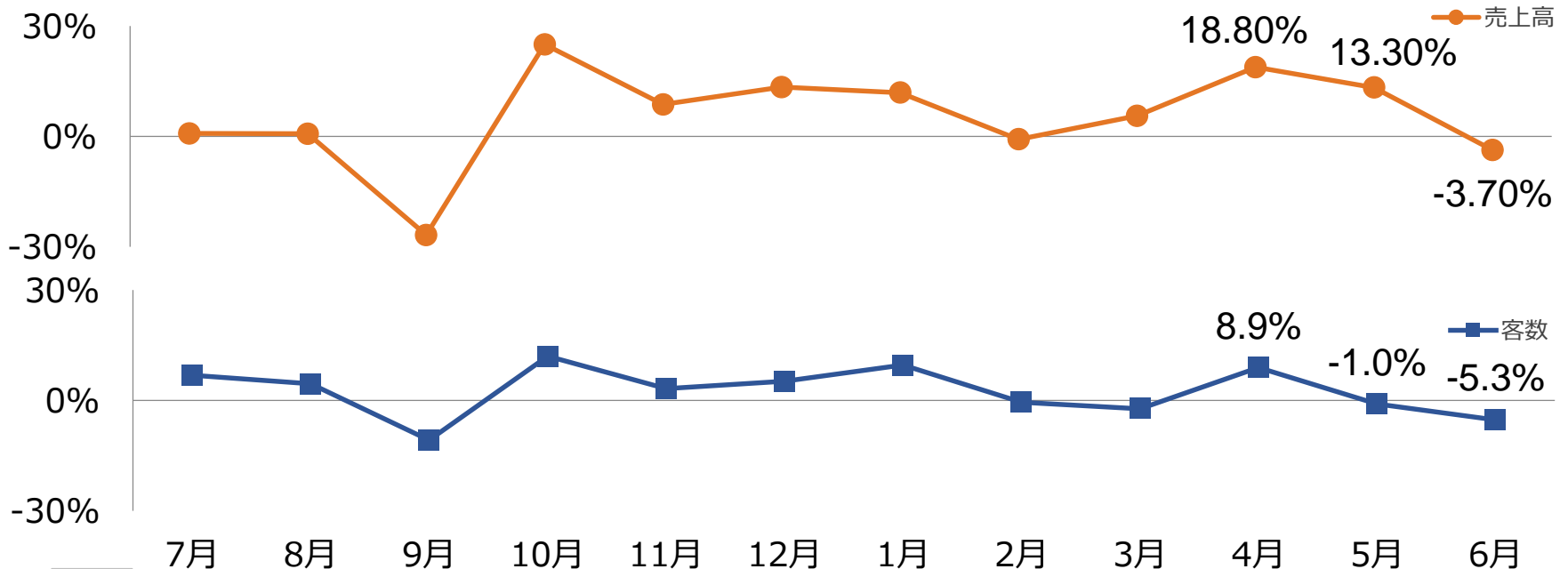
小売	
内訳	売上台数
中古車	1,697台
新車	910台
小売 合計	2,607台

※車買取専門店を含む全ての店舗における台数

国内店舗 売上・客数 既存店前年比推移

既存店売上前年比 **+9.4%** 客数前年比 **+1.0%**

国内オートバックスチェーン売上高および客数（既存店前年比）



※対象：国内オートバックスチェーン全業態

出退店の実績

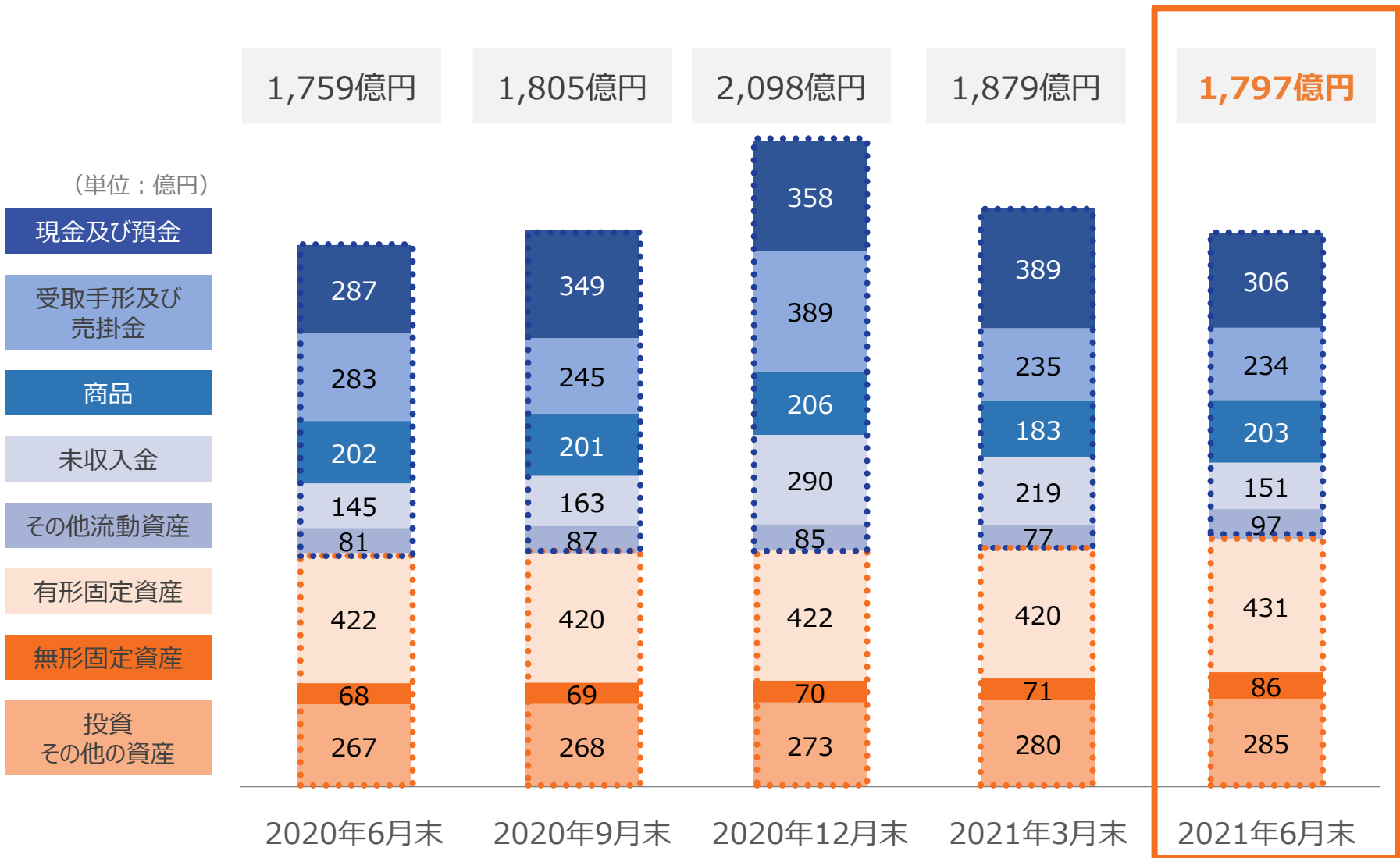
国内	21/3末	2022年3月期							22/3末
		1Q (実績)			21/6末	2Q-4Q (計画)			
		新店	S&B R/L	退店		新店	S&B R/L	退店	
オートバックス	490	+1	+1/▲1		491	+2	+2/▲2		493
スーパーオートバックス	74				74				74
オートバックスセコハン市場	6				6				6
オートバックスエクスプレス	11				11				11
オートバックスカーズ	3				3				3
国内計	584	+1	+1/▲1		585	+2	+2/▲2		587

海外	21/3末	2022年3月期			22/3末
		1Q (実績)	21/6末	2Q-4Q (計画)	
フランス	10		10		10
タイ	17	+3	20	+11/▲1	30
シンガポール	2		2		2
台湾	6	▲1	5	+1	6
マレーシア	4		4	+2	6
インドネシア	3		3	+3	6
フィリピン	3		3		3
海外計	45	+2	47	+17/▲1	63

※S&B : スクラップ&ビルド

※R/L : リロケーション (業態転換含む)

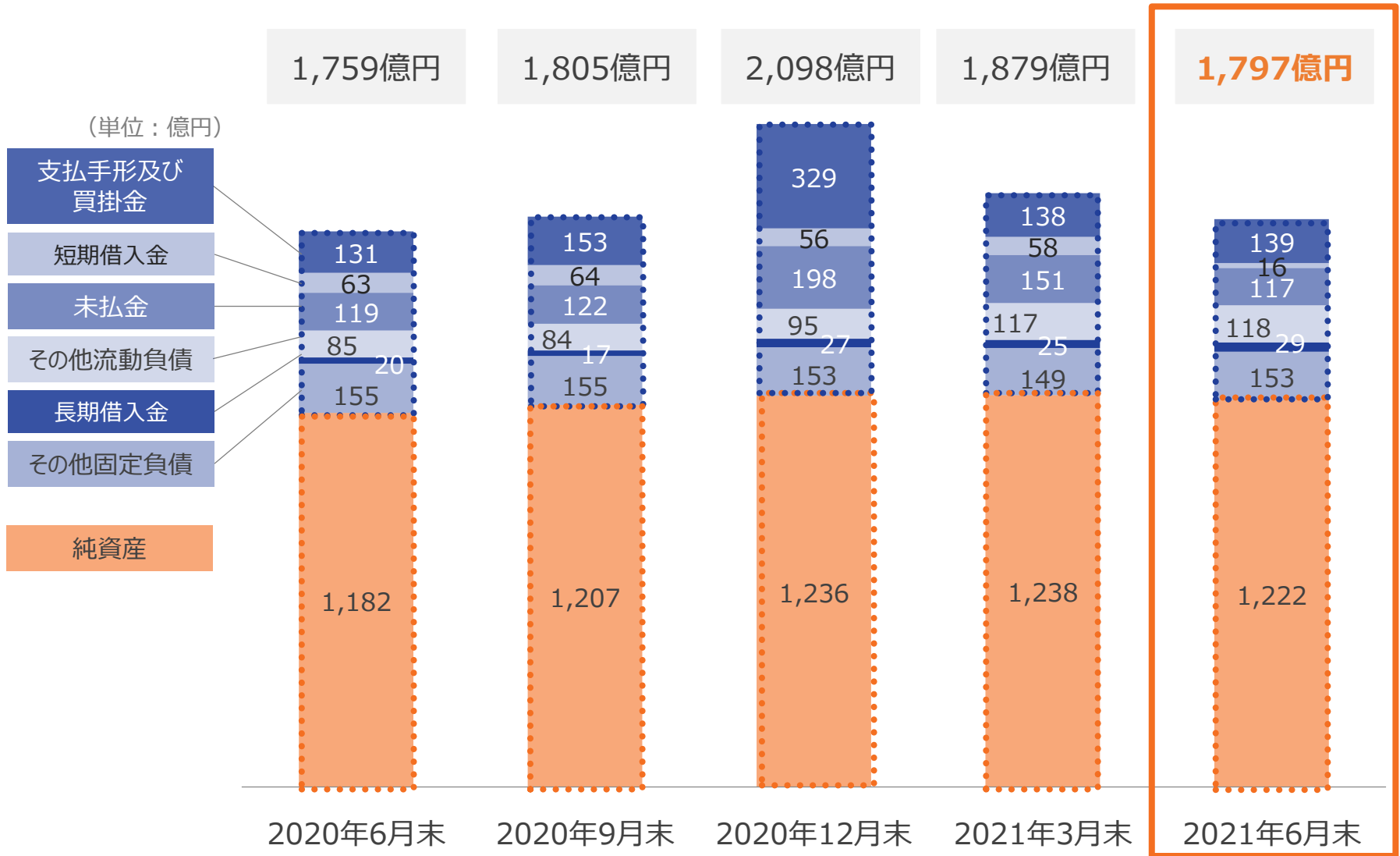
連結貸借対照表 資産の部



※表示単位未満切り捨て

※前連結会計年度以前については、新たな表示方法による組替えを行っておりません

連結貸借対照表 負債・純資産の部



※表示単位未満切り捨て

※前連結会計年度以前については、新たな表示方法による組替えを行っておりません



見通しに関する注意事項

当社の将来についての計画、戦略及び業績に関する予想と見通しの記述が含まれています。これらの情報は現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算出しており、今後の事業内容等の変化により実際の業績等が予想と大きく異なる可能性がございます。